

いま「協同」を拓く 2002全国集会 in千葉 歓迎の挨拶

磯野可一(千葉大学学長)

ご紹介いただきました千葉大学学長の磯野でございます。先ほど千葉音羽太鼓のすばらしい情熱の響きを聞きまして、私もこの集会のすばらしいことを痛感いたしました。どのような企画でやられるのかと思っておりましたが、まずこの太鼓で驚かされました。すばらしい企画だと思っております。本当に情熱の響きが胸の奥までしみわたるような太鼓の音でございました。みなさま方のこの集会に対する情熱がうかがえて、本当にうれしく思います。

本日は堂本知事をお迎えいたしまして、「いま『協同』を拓く千葉2002全国集会」が

この西千葉キャンパスにおいて開催されますことは、私ども千葉大学にとりましても誠に意義深いものでございます。

いま、21世紀という新しい世紀を私たちが迎えて、既に2年が過ぎようとしております。しかし、20世紀末の現象が暗く社会を覆っておりまして、未だいっこうに晴れる気配すら見えてまいりません。20世紀に人間の便利さと己の幸せを求めあまりに、物質文明というものが生物文明を超えて果てしなく発展したためにもたらされた弊害というものが、いま大きくこの地球を覆っていると思われま

す。そしてその結果が人々の心を大きく歪め、単純な道徳すら忘れ去られ、多様性の価値観とグローバル社会におきまして負の面で凶悪非道な犯罪を招来いたしました。かつて日本の歴史





にないほどの未曾有の暗黒の時期が到来していると私自身は感じております。私たちが招いたこのような弊害を私たち自身の手で振り払って、明るく希望のある社会、物質文明と生物文明が調和のとれた社会を再生し、次の世代に引き継いでいく責務が私たちにはございます。

今回、「協同を拓く」として、生命と労働、地域の再生を担う新しい力を求めて全国集会在が結成され、12の分科会において活動されますことは、極めて大切なことだと思っております。幸いにも私が立案し、来年度から千葉大学でスタートすることになりました「環境健康都市園芸フィールド科学教育センター」が、この目的に沿ったものであらうと思っております。これは環境と人間の共生を目的とした教育研究と実践の場を柏の園芸農地に求めようとするものであります。すなわち園芸学部が柏農場に都市環境園芸場と環境健康福祉施設を増設し、相互の機能扶助のもとに学術の創造と人材の育成そして環境健康課、医療福祉会、園芸療法、食と緑を通して、社会に大きく貢献せんとするものでございます。

みなさま方の今後ますますのご活躍を通しまして、私どもの立案してまいります本センターにもご協力・ご支援・ご助力いただき、日本から発信し世界に大きく広がる協同の和をつくりたいと願うものであります。

本日から始まるこの集会在がこういった面においても大変意義のある会となりますよう心から祈念いたしまして、簡単ではありますが私の挨拶にかえさせていただきます。今日はどうもご苦勞様でした。

